今年最多／スカイマーク機で

星空ジェットでサンタ多数目撃

サンタはやっぱり「空」が好き？　今年9月からスカイマークで就航している特別デザイン機「星空ジェット」で、サンタが多数目撃されていることが判明した。現在サンタ捜索チームによる調査が進められている。

サンタと思しき飛行物体が多数目撃されている、スカイマークの特別デザイン機「星空ジェット」

最初の目撃情報が寄せられたのは10月下旬。羽田空港から新千歳空港へと向かう機内だったという。搭乗客の一人が「機内から外を眺めていると、ものすごい勢いで飛行する謎の影が見えた」と同乗していたスカイマークの客室乗務員に伝達。再び窓をのぞいたところ、影は飛行機に近づき、目の前でふっと消えたという。運航には影響はなく、他に目撃者もいなかった。不思議に思った客室乗務員が上司に報告し影の形を調べると、サンタ捜索チームの発表した影と一致したという。

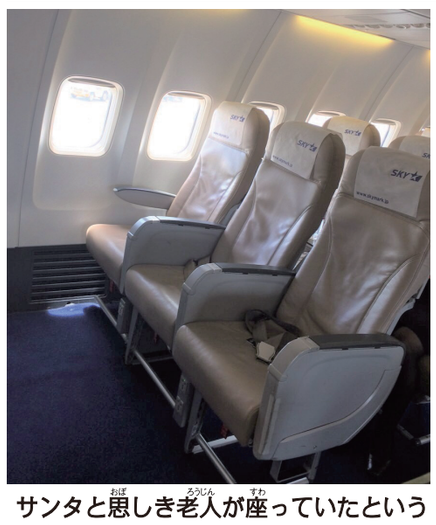
同社によると、こうした不思議な現象はその後も続き、目撃者は一般客から客室乗務員、パイロット、地上係員、ランプハンドリングスタッフまで多岐に及ぶ。最近では10日に目撃された。新千歳発福岡に向けて飛行していた機内で、機長が右前方に謎の光影を発見。管制塔に連絡するレベルではなかったが、光はソリのように見えたという。光は最初、速度を落として並走したが、速度を上げていった。その直後、機内に老人の「ホーホーホー」という笑い声と謎のアナウンス「メリークリスマース！」が勝手に入り、乗客たちを喜ばせたという。同社によると、こうした現象はこの2カ月で13件にも及ぶ。不思議なのが、目撃時の共通点が全て「星空ジェット」での出来事。こうした事態を受け、同社はサンタ捜索チームに捜査を依頼。現在詳しい調査が進められている。

この「星空ジェット」は、スカイマーク社が新規参入による就航開始から20周年を記念し、機体を特別に塗装した記念機。9月5日から運航を開始し、約一年間の期間限定機として同社のさまざまな路線で随時運行している。「星空ジェット」と呼ばれているように、機体には美しい星が散りばめられており、社内募集の中から男性副操縦士の考案した左右異なる美しいデザインが印象的だ。左側には同社が飛躍する願いを込めて虹色に輝く天の川を飛ぶ白鳥の姿、右側は朝焼けをイメージしたグラデーションを描いており、多くの旅行客を楽しませている。走行中は機体に描かれている星が流れ星のようにも見えるという声もあることから、捜索チームではサンタあるいはソリを引くトナカイが、その姿見たさに接近したのではと推測している。

シートでくつろぐ姿も

驚くべきことに、不思議な現象は機内にまで及び「星空ジェット」機内でサンタがくつろぐ姿が目撃された。18日、客室乗務員が搭乗に備え、機内を歩いていたところ、空席のはずの「フォワードシート」に真っ赤な衣服をきた老人の姿があった。客室乗務員が老人に声をかけたところ、視界が光に包まれ老人は姿を消したという。他に目撃者はいなかった。目撃した同社の客室乗務員によると「老人は足をまっすぐに伸ばし、くつろいでいる様子でした。赤い帽子を目深にかぶっていて、昔から想像していたサンタの姿そのものでした。お客さまのいないはずの機内になぜ乗っていたのか不思議」と首をかしげる。

サンタが座っていた「フォワードシート」とは同社の最前列席のこと。前後の座席幅が通常座席に比べて19～38センほど広く、足を延ばしてゆったりできるのが特長だ。サンタは今が繁忙期。調査を行っているサンタ捜索チームでは、下見やプレゼント配送に疲れたサンタが休憩中に座ったと見て、詳しい捜査を進めている。


サンタと思しき老人が座っていたというスカイマークの「フォワードシート」

クリスマスが間近に迫り、サンタ捜索チームの動きも慌ただしくなってきた。三田本部長によると、11月の捜索開始から延べ2000人を投入して捜索に当たっているという。

今年の捜索の目玉、脳波を使ってさまざまな機器を操作する「サンタ・サーチ・ブレーン（SSB）」は、試験導入が続けられており、先週末には小樽での大規模捜索にも導入。特殊免許を持つ捜査員が操縦し、成功を収めたという。「SSBは間違いなく今年の捜索で活躍してくれる」と、同チーム担当者は自信をのぞかせる。

また、すでに同チームは、クリスマス本番に向けボランティアスタッフ含め全道各地に捜査員500人を配置。サンタが好む「夢の集まる場所」を中心に捜索を続ける見通しだ。

20日は、北海道の玄関口・新千歳空港内で捜索訓練を実施。各航空会社のカウンターや観光施設・飲食店など、空港施設内をくまなく捜索した。「サンタは空路を使って北海道にやって来るはず。空と関連深い空港にも立ち寄るはずなので、目撃するその時を待ちたい」と、捜査員の一人は捜索への思いを熱く語った。

サンタ捜索、いよいよ大詰め

500人体勢で聖夜に挑む

捜索チームによる新千歳空港内での捜査の様子＝20日

捜索チーム　サンタ拠点として「茨城空港」着目

神出鬼没のサンタを発見すべく、サンタ捜索チームでは毎年、サンタ目撃件数の多い箇所を特定し、捜査員を投入して捜索を続けている。同チームで捜索の指揮をとる三田育三本部長によると、今年は本州・四国・九州とも連携し日本全国で捜索活動を行うといい、中でも注目している場所として「茨城空港」を挙げている。

サンタと茨城、というと、一見つながりがないように思うが、茨城空港は毎年のようにサンタが目撃されており、「サンタの聖地」として専門家の中では知られている空港という。サンタ捜索チームは数年前から茨城空港に着目し、高い捜索技能を持つ特捜班「S・A・N・T・A」も投入し、秘密裏に調査を続けてきた。

同チームは今年、茨城空港内にサテライト捜索本部を設けることを決定。同空港に国内線で唯一、発着しているスカイマークと連携し、サンタ情報の収集に当たる。スカイマークの沖縄～茨城便と茨城～札幌便を乗り継げば、沖縄からスムーズに北海道に行けることから、同チームは「サンタはスカイマークを利用し、あえて茨城空港を使用するだろう。沖縄から茨城空港を経由し、北海道にやってくる」と推測し、同路線を重点的に捜索するとしている。

クリスマスまであと4日。「沖縄から北上し、北海道で子どもたちにプレゼントを配る」というサンタの計画を仮説として立てた同チームの策が功を奏するか、注目と期待が集まっている。

クリスマス開催の空港内イベントも

サンタ捜索チームが茨城空港で特に着目しているのが、毎年クリスマス期間中に行われる特別イベントだ。空港内では22日（土）～24日（月）の期間中「茨城－札幌（新千歳）線往復ペアチケット」などが当たる「クリスマス大抽選会」を9時～17時で行うほか、10時～17時でオリジナルキーホルダーが作成できるワークショップを開催。クリスマス・イブの24日にはフィンランド・ラップランド州公認のサンタクロースが登場し、子どもたちと握手・記念撮影を行うという。また、クリスマス期間中の空港を象徴するのが、高さ約4㍍もの巨大クリスマスツリー。LED球を約800個使用したきらびやかな装飾が訪れる客たちを迎え、空港内のクリスマスムードをより高めている。こうした茨城空港のクリスマスイベントでは、過去にもサンタの目撃が多いことから、サンタ捜索チームでは捜査員を多数配置するという。サテライト捜索本部の奥には、トナカイの赤い鼻から発せられる特殊波をキャッチしてサンタの存在を察知する「トナカイレーダー」をはじめ、最新型の捜索機器を設置。三田本部長は、北海道にある捜索本部と連携しながらその姿を捉えようと策を講じるといい「一説では、サンタは華やかな場所を好むといわれている。さまざまなお楽しみがある茨城空港で、もしサンタらしき老人やトナカイらしき動物を見かけたら、すぐに連絡してほしい」と、空港利用者に協力を呼びかけている。

茨城空港に登場予定のフィンランドからのサンタクロース

どうしん夢プロジェクト　広告企画

どうしん夢プロジェクト

DOSHIN SANTA SEARCH
サンタ捜索WEB
「サンタ新聞」募集中!
我が家のクリスマスやサンタさんへのお願い事など投稿しませんか？
締め切りはサンタ捜索WEB内からダウンロード!!
ふりがな入り紙面が見られる!
https://adv.hokkaido-np.co.jp/santa/

企画制作／北海道新聞社営業局

この広告企画はお子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。フィクションを多く含みますがご理解、ご了承願います。次回は12月24日朝刊予定

どうしん Santa's eye

思いつき旅行のすすめ

いよいよクリスマスが近づいてきた。今年はイブを含めて三連休となり、ゆっくりクリスマス気分を味わえる暦である。その一方、連休の計画を練る暇もなく師走を駆け抜けた人も多いのではないだろうか。

今からではどこにも予約できないと諦めている人にこそ、いつものクリスマスとは一味違う「思いつき旅行」を提案したい。スカイマークでは、新千歳空港から茨城、東京（羽田）、名古屋、神戸、福岡への直行便を有する。就航20周年を記念した特別機「星空ジェット」が注目を集めているほか、搭乗日前日まで購入できる割引運賃を設定するなど、手軽に予約できる点が魅力的である。また昨年度の定時運航率は国内1位、欠航率は国内最低と、信頼のおけるエアラインの一つといえる。

今週末は家族や友人とともに、飛行機に飛び乗ってはいかがだろう。思いつきで出かける旅以上の、サプライズプレゼントはそうないのだから。

（C）北海道新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。